

平成27年度 第3回 横浜市芸能センター指定管理者選定評価委員会 会議録

1 日 時 平成27年 8月25日（火） 14時10分～16時45分

2 場 所 文化観光局会議室

3 出席者 上杉 幸雄 委員長、垣内 恵美子 委員、西田 由紀子 委員、藤崎 晴彦 委員

4 欠席者 無し

5 傍聴者 2名

6 議事内容

議題	<p>議題1 第3期指定管理者選定 第二次審査</p> <p>(1) 公開ヒアリング</p> <p>(2) 第二次審査</p>
委員意見等	<p>1 開会</p> <p>(1) 定足数の確認 委員数4名のうち4名の出席により定数を充足し、会議の成立を確認した。</p> <p>(2) 本委員会の公開・非公開について 〈審議結果〉 横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第31条及び横浜市芸能センター指定管理者選定評価委員会運営要綱 第9条に基づき、議題1(2)の「第二次審査」は非公開、その他は公開とした。</p> <p>2 議題1：第3期指定管理者第二次提案書の審査について</p> <p>(1) 公開ヒアリング 応募団体による第二次提案書のプレゼンテーションの後質疑を行った。 (以下「・」＝委員、「→」＝応募団体) 〈質疑〉 「1 指定管理業務実施にあたっての基本的な方針」について ・基本方針を十分に理解し積極的に協力しようとする姿勢、地域活性化につなげようとする姿勢が評価できる。 ・過去の実績から実行力も十分あると思うので期待している。 ・大衆芸能を後世に受け継いでいくのは当然として、新しい未来に向けての創造性の発揮も認識としては必要。 ・オリンピックを一つの通過点に見据え、アジアを始め国内外に大衆芸能をつなげていく認識も持ってほしい。 ・1次審査での指摘を踏まえ、考え方が理解しやすい内容となっている。</p> <p>「2 文化事業」について ・寄席公演の名称変更について、広報や入場料改定など、集客に向けた具体的な方</p>

法も書かれており、良いと思う。人を呼び寄せるには良い公演内容を組むことが一番大切なので、これまで以上に演者団体との打合せを密にしてほしい。

- ・市民サポーターの取組みは素晴らしい。しかし、コーディネーター等に人を割かないと成り立たない面があり、どの辺から人材を見つけてくる考えか。
→コーディネーターは職員が担う想定だが、外部の方の協力も必要と考えている。市内の文化事業や福祉施設などのサポーターの取組実績について話を聞いたり、アウトリーチで関係のある福祉系、町内会等の団体にも相談したい。
- ・入場料金の値下げは収入減とのジレンマがある。バランスをどう考えているのか。
→寄席公演については、現状の料金が都内の寄席より高いため、値下げして同水準とする。値下、名称変更、顔付けの強化のセットで観客を増やしていきたい。
- ・「子ども寄席」は名称を「親子～」とすると親にも興味を持ってもらえる。また、来館経験のない人をターゲットとした広報物には、単なる施設の情報よりも落語の具体的なネタの魅力から誘っていく方が効果が上がると思われる。
- ・専用WEBページへのコンテンツ掲載については、ただ載せるのではなく、深掘りした情報を基に上手に構成して載せるなど、魅力的な演出が欲しい。
- ・市民サポーターの件は、1次提案より考え方が整理され、特色、実現性も含め、実施上の考えが分かりやすくなった。
- ・SNSを活用する際、作為的なメディア操作に陥らないよう、気を付けて運用すべき。
- ・2階で行う展示・企画展について、1階エントランスから2階に人を引き込み回遊させる工夫が重要である。
- ・アウトリーチの重点テーマは、事業全体の考えとどのように連携しているのか。
→31年と32年は、オリンピックの前年、当年ということもあり、それに対応した、重点テーマとする。その他の年もこれまでの取組みを集約した重点テーマを打ち出すことで、にぎわい座の取組趣旨が明確になり、職員の意識面やパートナーを探しやすくなることを期待している。

「3 施設の運営」について

- ・稼働率目標について、特に練習室と制作室を5年間で大きく改善させる積極的な提案となっているが、その積算根拠、考え方を聞きたい。
→制作室を小ホールの3つめの楽屋、飲食ができる会議等に使えること、練習室も地下にも創造空間があることを積極的にPRし、利用促進を図りたい。
- ・1階エントランスへの観光案内所の誘致は具体的にどのような可能性が考えられるのか。
→常設ではなく、集客の多い週末などの際にトライアル実施することから始めたい。
- ・にぎわいスタッフの有償配置サービスは、借り手に対して効果があると思う。
- ・空き施設を大衆芸能以外に有効活用する件について、大衆芸能のイメージが強い施設を、想定ターゲットに対しどのようにアピールしていくのか。
→小ホール等について、演劇利用者等にPRしたい。その他、ダンス、コーラスなどもターゲットと考えている。

「4 施設の管理」について

	<ul style="list-style-type: none"> ・公演に支障が出ないように、予防保全の観点を持ちながら取り組んでほしい。 ・提案を着実に実行してほしい。 <p>「5 職員の確保、配置及び育成」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家を職員から育てようということが明記されており、長期的な観点で高く評価できる。 <p>「6 収支計画及び指定管理料」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントカードはリピーター化にどのくらい寄与しているのか。また、今の特典をどのように改良しようと考えているのか。 <ul style="list-style-type: none"> →現状1割くらいの方がポイント還元で入場しており、ヘビーユーザーに使われている。今後は、ポイントの使用期限を広げたり、事業内容でポイントを増やすなどし、寄席公演の来場者を増やすことが重要と考えている。 ・寄附や助成金は、市民サポーターとパッケージにして、市民の力を取り込むスタンスを前面に出してはどうか。 ・事業収入が毎年増えていくのに対し、事業支出が一定額なのはどのような考えによるのか。 <ul style="list-style-type: none"> →2期目は収支が厳しく、全体としては改善したものの、事業だけでは収支のバランスが取れていない。3期目は入場者数・入場料収入を増やすのが大きな目標であり、支出は現状を維持しながら収入を増やしていくことで現状の差を埋めていきたいと考えている。 <p>(2) 第二次審査</p> <p>第二次提案書類及びヒアリングの内容を踏まえ、各評価項目の採点、評価の取りまとめを行った。</p> <p>【審査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募団体：(公財) 横浜市芸術文化振興財団 <p>総得点507点／680点 (委員4名×持ち点170点)</p> <p>平均126.75点 (≧最低基準102点[170点×0.6])</p>
<p>審議結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・審査得点及び講評については、本日の結果及び意見を集約して、委員長確認の上報告書にまとめ、指定管理者の候補者について横浜市長に報告する。